

明石・三木

本店：京都・平安神宮東
☎ 0120-05-7172 <http://www.daiyasu.jp>

このみは下に掲載

☐のち 5℃以上
☐一時・時々 5℃未満
数字(上)最高気温
(下)最低気温
丸囲みは降水確率
白又キは50%以上
は正午の風向き
矢印なしは無風

27 19 ④	15日 (木)		24 19 ④	16日 (金)		23 17 ④
26 18 ④	15日 (木)		23 18 ④	16日 (金)		22 16 ④

心溶かす「天国屋」

社会運動家の賀川豊彦(1888~1960年)の思いを受け継ぐカフェが今春、開店5年目を迎えた。神戸市中央区吾妻通5の賀川記念館内にある「天国屋カフェ」。賀



賀川豊彦

川が1910年、貧しい人々に栄養ある食事を安く提供しようと開いた食堂「膳飯天国屋」をモデルに、ひとつの食卓か

賀川豊彦の思い継ぐカフェ

開店5年



天国屋カフェでランチを楽しむ利用客やスタッフら 〓神戸市中央区吾妻通5で

ら「生きづらさ」を抱える人たちの居場所をつくらうという現代版の試みだ。

カフェは2010年、同館内の教会の牧師、上内鏡子さん(49)が中心となり始めた。賀川の「天国屋」が資金難に陥り、わずか3カ月で閉鎖に追い込まれてからちょうど100年後。当時の年報に「金が出来たらまた開きたい」と残した賀川の思いを継ぎ、「4カ月目からの再スタート」と位置づけた。

木々土曜の週3回、手作りの日替わりランチ(500円)やコーヒー、ケーキを提供。第2金曜の夜に開く「ナイトカフェ」には約30種の料理が並び、地域住民でにぎわう。運営はカフェの存在を知ったお年寄りや障害者、外国人などさまざまな境遇のボランティアが担う。

洗い場を担当する濱敷さん(47)〓神戸市兵庫区〓は約10年前、脳内出血で倒れて右半身にまひが残った。5年前には2度目の離婚。4人の子とも

人暮らした。「お客さんの『ごちそうさま』や『ありがとう』がうれしい。今は天国屋に来ることが生きがい」と目を輝かせる。

フィリピン国籍のヘレン・レリス・ナオエさん(46)〓同市東灘区〓は夫(38)と2人の息子を残して来日し20年になるが、日本語を話せないまま。2年前に一念発起してスタッフになり、仲間や利用客と会話しながら日常会話を学んでいる。「ここに来れば一人じゃないと思える。他愛もない話が楽しい」とほほ笑む。

これまで利用客の中には不登校の子ともや家庭内暴力(DV)の被害者もいたといい、上内さんは「経済的な貧困だけでなく、心の問題にどう向き合おうかが今の時代の課題。カフェがさまざまな社会の問題を共有したり解決したりできる場になれば」と話している。

営業は午前11時~午後4時。ランチは売り切れ次第終了。問い合わせは同記念館(078・221・3627)。

【宮嶋梓帆】

神戸の記念館内——さまざまな境遇のスタッフ・客集う